

## 船井情報科学振興財団 第 6 回留学報告書

イエール大学にて化学&環境工学博士課程 3 年生になります兼田真周です。昨年 9 月に博士候補試験に無事合格し、晴れて **candidate** になることが出来ました。それ以降どこか一皮むけたような感覚で、毎日大変なのは変わりませんが楽しく過ごしています。第 6 回目の留学報告書では、2022 年 8 月から 12 月までの出来事をご紹介します。

.....

### 博士候補試験

イエールの工学部では博士候補試験のことを **Area Exam** と呼んでいます。試験内容は、当日にスライド発表と質疑応答を 1 時間程度し、その後 3 人のコミティメンバーと部屋に残り、より詳しく話し合い教授陣からフィードバックとコメントをもらいます。発表内容はこれまで進めてきた研究テーマとプロジェクトを踏まえて、これからの博士論文の展望について議論します。クローズドセッションでは厳しい質問攻め遭いとんでもない時間になるという噂も聞いていましたが、運良く穏やかな雰囲気でもとても実りある意見交換になりました。この後は自分も部屋を出て、コミティーの先生たちのみで更に話し合い、少ししてから部屋に呼び戻され試験の結果を伝えられました。発表会を無事通過した後には発表内容を Grant Proposal のような構成にしてまとめたものを学科へ提出します。

当日は自分で思っていたより緊張していたのか、スーツを着ることを完全に忘れて普通にパーカーで登場してしまいました。しかしこのお陰で、スライド開始前に友達や先生から服装について色々冗談を言われたりしてリラックスした気持ちで始めることができました。

この試験を受けた 9 月末の直前に夏休み休暇で帰国しました。本当は余裕を持ってもっと早く帰る予定だったのですが、学会でコロナに罹ったため計画が後ろ倒しになってしまいました。

試験準備もろくに進んでいなかったのも、休暇に関して先生たちはあまり好意的ではなかったようでしたが、結果的に思い切って取って正解でした。昨年の春学期が終わったあたりから研究やその他のタスクに追われ、時間管理も気持ちも一杯いっぱいになることが多々あり、その結果普段の不注意で自転車事故に遭ったりコロナに罹ったりしてしまったのだと思っていました。具体的に何を变えて良いのかわからずただ見過ごしていたのですが、このまとまった休みの中でゆっくり考えることができました。

大学に戻ってきてからは試験準備に集中し、緊張感のある毎日で一日がとても貴重に感じられてこの間は自然と朝早く目が覚めました。気持ちの余裕を保つために作業時間を縮め、土日は学校に行くことをやめ、代わりに読書や遊びに出かけることに習慣を変えました。日本小説を読んでいると特に頭がリフレッシュされるようで最近では **Kindle** にのめり込んでいます。主に近現代の作品を手当たり次第に読み漁っています。

博士候補試験では、研究内容のみでなく精神面も総合的に試され良い転換機になったと感じます。

## 余暇と普段の生活

夏休み中はお休みになっていたのですが、3年生の秋学期も引き続き音楽院でピアノの授業を受けています。前回と教えてくれる学生が代わり指導も変わって新鮮で楽しいです。ただ慣れは恐ろしく、授業の時に **Steinway** を使っていると同じ **Steinway** の中でも手入れや品質によって音が全然違うことが気になり始め、最近では台を選び好みするようになってしまいました。ジムもなんとかと友達とはっぱを掛け合いながら通っています。週末には工学部を中心にインドアサッカーをしています。ときどきニューヨークにも頑張って足を延ばしています。

次回帰国する機会があれば、人間ドックを受けようと考えています。

## おわりに

3年目前半は研究や生活のペースを見直し修正することが出来たと思います。とにかく候補試験が終わってほっとしています。この調子で後半戦も張り切って臨みたいと思います。末筆になりますが、いつも船井情報科学振興財団の皆さまからの温かいご支援を有難うございます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



左上から時計回りに二人のアドバイザーと候補試験のお祝い、研究室でピザランチ、年末の学科のリトリートで行った研究発表会、Manhattanにあるリンカーンセンターでくるみ割り人形を鑑賞した時のシアターです。